

令和7年度第1回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨（案）

日 時：令和7年6月12日（木）14：00～16：30

方 法：WEB

出席者：【ZOOM参加】15名

玉城佐笑美（県立中部病院）、奥平藤也（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、横田美佐（県立宮古病院）、間島奈央子（キャンサーフィットネス）、上原弘美（友愛医療センター）、新垣（南部医療センター・こども医療センター）、田場純子（沖縄県保健医療介護部）、西村克敏（地域統括支援センター）、増田昌人（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）

欠席者：なし

陪席者：なし

【報告事項】

1. 令和6年度第4回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和7年3月13日）

資料1に基づき、友利委員より、令和6年度第4回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. 今年度の部会委員一覧

資料2に基づき、大久保委員から委員の就任状況について報告があった。新しく中部病院から奥平藤也委員が就任した。それに伴い、副部会長は玉城委員から奥平委員へ変更となることが承認された。南部医療センター・こども医療センター新垣委員（代理出席）から、委員が変更となること、担当者は調整中と報告があった。

【協議事項】

1. 令和7年度の部会計画

資料3に基づき、友利委員より、令和7年度の部会計画について説明があった。ロジックモデルにもとづき重点的に活動する内容について、拠点病院以外のがん診療施設も対象に含む相談員研修の開催、院内外での広報活動、患者サロンでのピアサポートの活用、市民イベントへの参加、ハローワーク等と協力した就労支援が挙げられ、それぞれの進捗状況について説明があり、この内容で進めていくことが承認された。

相談員研修については、琉大病院主催は8月～9月で計画中所であること、地域相談支援フォーラムは2026年2月14日開催であることが周知された。また、次年度の地域相談支援フォーラムは沖縄県が主催することが決定されており、WEB開催を検討したいと説明があった。研修内容については検討を重ね、ファシリテーター等での参加協力をいただきたいと説明された。

2. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）の進捗について

資料4に基づき、増田委員より、ロジックモデルにもとづく第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）と追加された評価指標や引用データなどについて説明があった。また、例年実施されている現況調査もロジックモデルによる回答を求める方向性で検討されていると説明があった。

友利委員より、国部会での議論では、ロジックモデルにより相談支援活動の内容がどう成果に反映されるかを可視化する意図があると補足説明された。

3. その他

特になし

【報告事項】

3. 地域統括相談支援センター活動報告

資料5に基づき、西村委員より相談件数及び活動報告があった。1月25日にがんピアキャラバンを開催。ピアサポートの普及活動を行った。2月22日にはがんピアサポーター養成講座を開催した。また、拠点病院のゆんたく会へピアサポーターの派遣やオンラインゆんたく会を開催した。そのほか地域統括相談支援センター会議での検討事項について報告された。

4. がん患者ゆんたく会（1～3月）

資料6-1～6-3に基づき、令和7年1月～3月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院は玉城委員より報告があった。1月と2月はフリートークを開催。3月のキャンサーフィットネスインストラクターの間島委員によるヨガの講演では、参加者から、場所をとらずに体に無理無く参加でき良い時間が過ごせたという感想があった。

那覇市立病院は糸数委員より報告があった。精神科医による「がんと向き合う心のケア」というテーマでフリートークをした際には、参加者は、食事や運動など自分なりの工夫やコントロールしている点を自由に話され交流されていた。3月はカラーセラピーを開催し、色選びと気持ちの関連性なども知ることができ、参加者は楽しんでいる様子であった。

琉球大学病院は友利委員より報告があった。1月は移転のため開催中止。2月と3月はフリートークを開催した。

北部地区医師会病院は仲村渠委員より報告があった。3月にテーマを「北部女子会」とし女性限定で開催した。約5年ぶりの開催で、今後は年3回の開催を目標としている。

上原委員より、友愛医療センターでも患者サロンを開催しているが参加者が少ないという課題があり、他の病院ではどんな風に周知をやっているか質問があった。糸数委員より、那覇市立病院では外来の電子掲示板やロビーでのチラシ設置、院内ホームページにもイベントのお知らせとして掲載していると回答された。さらに仲宗根委員より、院内患者会のリーフレットを点滴センターの呼び鈴の隣に設置したところ、呼び鈴を押すときに患者さんの目に留まり参加に至ったことがあり、掲示物より患者さんの動線で見つくとともに置くことの必要性を院内スタッフと共有した事例が紹介された。

上原委員より、地域の患者会の活動状況について情報共有があり、性別やがん種別などに応じた拠点病院と共同でのサロン開催を検討したいと意見があった。具体的な活動案については、各委員から随時意見を寄せていただくこととなった。

5. がん相談件数（1～3月）

資料7-1～7-6に基づき、令和7年1月～3月の各拠点病院のがん相談件数と内容について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

相談内容では、高齢独居の方を中心に薬の管理や食事面での相談が多く、サービス調整などで地域包括等と連携する事例があった。他施設通院中の方からは、県外に住む患者さんのご家族から介護に関する相談事例があった。

○県立中部病院（玉城委員）

相談回数が初めての方が2回目以上の方より多くなっており、初回治療前の方の立ち寄りが増えてきた可能性がある。がん治療を希望されない方のご家族からの相談や、治療選択やセカンドオピニオン後の相談など、継続して対応した事例があった。アピアランスの相談は、県の助成事業ではがん相談支援センターに立ち寄る義務はなくなったが、ウィッグに関することを中心に一定数相談があり対応している。

○那覇市立病院（仲宗根委員）

1月2月と比べ3月はがん相談に対応できる職員の退職等により件数が減少した、ホスピス・緩和ケアに関する相談が最も多く、不安・精神的苦痛を訴える方への対応も多かった。相談者では相談室の利用が2回以上の方が多く、毎月90分以上と長時間の相談を希望する方も一定数いて、対応時間の確保が課題である。他施設通院中の方からの相談では、かかっている医療機関で誰に聞いたらいいかわからない等のコミュニケーションに関する内容も多く、相談者の意向に添って、かかりつけ医療機関へ連携を図り担当者を確認してつないだ事例があった。

○県立宮古病院（横田委員）

相談件数に変化はないが、若年層のがん患者さんに関する相談が増えてきた印象。また、進行癌で宮古では対応できない集学的治療のため本島に行く必要があるが、渡航費を含めた経済面や病状から治療を進めることが難しい事例もあった。

○県立八重山病院（岩崎委員）

相談内容に大きな変化はない。頭頸部癌患者さんの療養支援や、急逝された患者さんの経済面での対応を中心に家族支援を行った事例、障害をもつがん患者さんの療養支援や意思決定支援に対応した事例などがあった。

○琉球大学病院（大久保委員）

1～2月は移転による外来制限等の影響もあり件数は減少したが3月は平均値だっ

た。取り組みによる初回治療前の来所者数は月平均 20 件弱で定着しつつあり、仕組みができたことで相談につながってきている方もいる。総件数の増加にもつながっており、対応するための運営面、特にマンパワーを工面する必要がある。相談内容には変化はなく、ホスピス・緩和ケアに関することが多く、精神疾患をもつがん患者さんの意思決定支援で難しさを感じる事例があった。他施設通院中の方からは、医療者とのコミュニケーションの課題に関することや、匿名で情報支援を求めて問合せをされる事例があった。移転の影響もあると思われるが受診方法の問合せが増えていた。

6. がん相談件数集計（10～12 月）

資料 8 に基づき、友利委員より、各拠点の令和 6 年度 10 月～12 月の集計比較について報告があった。各項目のうち病院間で違いがある部分などの説明があった。

前年度の集計件数データについて、沖縄県から提供依頼があり提出したことが報告された。

7. がん相談支援センターの広報

資料 9 に基づき、友利委員よりがん相談支援センターの広報について、新聞無料広告欄の掲載状況の報告があった。週掲載するよう依頼しており、引き続き実施する。

8. 第 24 回都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会

資料 10 に基づき、友利委員より報告があった。5/30 開催は集合形式で実施され、ロジックモデルを用いた部会計画の作成や相談記入シート及びカウントールの修正点と方向性について説明があった。

9. その他

次回開催は、令和 7 年 9 月 11 日（木）14 時からウェブにて開催予定。